2012−2013年度　ブックスタート赤ちゃん絵本20冊が決定

2012年4月から2年間、各地域のブックスタート事業で赤ちゃんに手渡される絵本の候補となる「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊」が決定しました。

■ 独立した中立的な「絵本選考会議」

ブックスタート赤ちゃん絵本20冊は、2年に一度開催される、独立した中立的な「絵本選考会議」で選出されます。赤ちゃんと絵本に関する知識と経験が豊富な5名の選考委員(乳幼児発達の専門家、司書、保育士など)が、日本国内で出版されている赤ちゃん絵本※1の中から、選考基準に基づいて20冊を選出します。

2011年5月・6月に、2日間にわたって開催された絵本選考会議では、各選考委員の専門的な視点や豊富な実践経験から、候補に挙がった絵本について様々な意見が交わされました。また、ブックスタートやおはなし会などで赤ちゃんとそれらの絵本をどのように楽しんだかという経験も委員同士で共有し、候補に挙がったすべての絵本を1冊1冊実際に声に出して読み合いながら、自治体の事業の中で手渡されることなども考慮し選考を行いました。

選考会議の様子

※1 NPOブックスタートでは、日本国内で出版されている赤ちゃん絵本を「赤ちゃん絵本ライブラリー」として収集。これらの絵本と、各選考委員から推薦された絵本をあわせた、約3,700冊の中から選考を行いました。

選考基準

・赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わしながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本。
・上記に関し、年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本。
・上記に関し、今後、赤ちゃんからその支持を受ける可能性が高い絵本。

選考委員 (敬称略・五十音順)

足立 茂美 (乳幼児発達・鳥取県立保育専門学院講師)
住谷 朋人 (小児科医師・住谷小児科医院院長)
高瀬 理子 (司書・静岡県浜松市立中央図書館)
中村 柾子 (保育士・元保育園園長、青山学院女子短期大学講師)
広松 由希子 (絵本研究家)

<2012-2013年度　ブックスタート赤ちゃん絵本20冊>

『あっ!』	文/中川ひろたか　絵/柳原良平 (金の星社)	『しろくまちゃんのほっとけーき』	作/森比左志・わだよしおみ・若山憲 (こぐま社)
『いない いない ばあ』	文/松谷みよ子　絵/瀬川康男 (童心社)	『だっだぁー』	作/ナムーラミチヨ (主婦の友社)
『おつきさまこんばんは』	作/林明子 (福音館書店)	『だれかしら』	作/多田ヒロシ (文化出版局)
『おやすみ』	作/中川李枝子　絵/山脇百合子 (グランまま社)	『ちょうちょう ひらひら』	文/まど・みちお　絵/にしまきかやこ (こぐま社)
『がたん ごとん がたん ごとん』	作/安西水丸 (福音館書店)	『どこかな どこかな』	文/そうまこうへい 絵/かとうあやこ (フレーベル館)
『くだもの』	作/平山和子 (福音館書店)	『はしるの だいすき』	作/わかやましずこ (福音館書店)
『くっついた』	作・絵/三浦太郎 (こぐま社)	『ぴよ ぴよ』	作/谷川俊太郎　絵/堀内誠一 (くもん出版)
『ごぶごぶ ごぼごぼ』	作/駒形克己 (福音館書店)	『まて まて まて』	案/こばやしえみこ　絵/ましませつこ (こぐま社)
『したく』	作/ヘレン・オクセンバリー (文化出版局)	『もう おきるかな?』	文/まつのまさこ 絵/やぶうちまさゆき (福音館書店)
『じゃあじゃあ びりびり』	作・絵/まついのりこ (偕成社)	『もこ もこもこ』	作/谷川俊太郎　絵/元永定正 (文研出版)

NPO ブックスタートでは 20 冊の見本の貸し出しを行っていますので、ぜひご活用ください。
お問い合わせは地域支援担当まで。

■ 地域で手渡す絵本を決定する際に…

地域で手渡す絵本を決める際には、選考の過程や理由を明確にし、関係者で共有しておくことが大切です。各自治体では図書館員や保健師が専門知識を活かして選んだり、赤ちゃんと絵本を読む機会の多い保育士やボランティアが中心となったり、関係者全員が集まって会議を開くなどして、手渡す絵本を決定しています。

□ 絵本提供の特別なしくみ

安全性※2に問題がないことが確認された20冊の絵本は、提供出版社に得失のない「特別支援価格」で、かつ出版販売会社や書店を経由せず、出版社から直接NPOブックスタートに提供され、他のアイテムと共にブックスタート・パックとして自治体に購入されます。

2000年の子ども読書年以来、出版界(出版社・出版販売会社・書店)が、「ブックスタート・パック提供のしくみからは直接的な利益を得ない」という合意に基づき活動を応援していることから、この特別な価格と流通が適用されています。これにより、実施自治体に対する廉価でのパック提供と、その収益によるNPOブックスタートの様々な支援事業が可能となり、全国の活動の普及と充実が支えられています。

※2 選出された絵本は、赤ちゃんがなめる可能性のある外側のコーティングについて、食品衛生法に基づいた検査を行っています。

～選考委員から～ (敬称略・五十音順)

足立 茂美
(乳幼児発達)

今回選出した20冊の絵本の中には、これまで何度も選ばれてきた絵本群と、初めてお目見えする絵本群とがあります。前者は、これまでに赤ちゃんたちの反応がとてもよくて、やはり今回もぜひ赤ちゃんたちに出会ってもらいたいという思いで選んだ絵本群です。後者は、今後赤ちゃんや保護者に喜ばれ支持されることを願って、1冊1冊吟味して選びました。赤ちゃんの反応や保護者の気持ちをあれこれ想定したり、子育て体験を振り返ったり、その場で声に出して読み合ったりしました。その選考過程で、赤ちゃんについて、絵本について、お互いに真剣に心置きなく語り合えたことは、とても得難い嬉しい体験でした。

住谷 朋人
(小児科医師)

普段、診療の傍ら園医を務める保育所と幼稚園で読みきかせをさせてもらっています。読みきかせを通じて絵本の魅力やすばらしさを知り、また、子どもたちの豊かな感受性や自ら育つ力に気づかされました。今回、壁一面の赤ちゃん絵本に囲まれた会議室で、他の4人の選考委員の方々と2日間に渡り、熱く・楽しく議論を重ね20冊を選びました。絵本を介して、赤ちゃんとお父さん・お母さんをはじめ、周りの人たちとのコミュニケーションがより豊かなものとなるよう期待してやみません。診療とはまた違った形で、赤ちゃんの健やかな成長のお手伝いができそうで、嬉しい限りです。

高瀬 理子
(司書)

赤ちゃんの身近なもの・興味を引くものを、生き生きとした絵とことばで描いているか、赤ちゃんがことばの音とリズムの楽しさを味わうことができるか、親子のスキンシップや実際の遊びの延長として楽しめるか、赤ちゃんの目線や心の動きに添っているか、などの視点で選考にあたりました。選考会議では、定番の絵本の良さを再確認したり、これまでとりあげなかった絵本の魅力を発見できたりと、充実した話し合いができました。ブックスタート会場のあたたかい空気そのままに、家庭でも赤ちゃんと家族を心地良く包んでくれる、そんな絵本たちを選ぶことができたと思います。

→次ページにつづく

特 集 1

保育園では、子どもたちの好きな遊びや、興味のあるものを描いた絵本から手に取ることが多いのですが、実は読み方も大事なのですね。絵本は、まずは絵に目がいきますが、読みやすく、心地よく、美しく響く言葉であるかどうかも大切です。今回の選考会議でも、一冊一冊、声に出して読み合いました。すると、とても生き生きと、これらの絵本のよさが浮き上がってきました。赤ちゃんは、言葉の響きに敏感です。絵本選びに迷われたら、その一冊から、楽しいかかわりが生まれるかどうかが、決め手になるでしょうか。赤ちゃんのために、良質な絵と言葉の響きあいを大事に選びあった、楽しい2日間でした。

中村 柾子
（保育士）

広松 由希子
（絵本研究家）

ほとんど初対面の方でしたが、それぞれが好きな赤ちゃん絵本をプレゼンするとき、本当ににこにこ話してくださるのが印象的でした。たぶん私もそう。赤ちゃんと絵本を楽しむよろこびを体で知ってしまうと、抗えません。知らない絵本を紹介されてもうずうずし、ああ、これ赤ちゃんと読みたいと感じてしまうのです。このよろこびを教えてくれたのは、20年余で出会った赤ちゃんたち。言葉は話せなくても表情や仕草でいっぱい伝えてくれた、彼らと会っていなければ、違う人生でした。ひたすら赤ちゃん絵本に向き合った選考会議は、真剣ながらとても楽しく、私は遊び疲れた子どものように心地よく帰途につきました。